

J-PARC/MLF 利用者懇談会第7回総会議事録

2012年10月10日

日時：2012年10月10日（水） 18：30～19：10

場所：日本科学未来館（東京）7階「みらいCANホール」

出席者：73名、委任状提出：12名 合計：85名

1. 会長挨拶、及び幹事の紹介

鳥養会長より挨拶があった。今年4月に会長に就任してから、利用者懇談会の必要性まで立ち返りながら幹事と議論を重ねてきており、走りながら懇談会の在り方を考えていきたい。まずは本総会にて今年度の活動計画をご提案申し上げるとの説明があった。その後、第3期の幹事の紹介があった。

2. 総会の成立

総会にさきだち、奥事務局担当幹事より、出席者、委任状提出数の説明があり、総会の成立要件が満たされている旨、宣言された。

3. 議長の選出

議長として大友季哉氏が推薦され、承認された。

議長の指名により、奥幹事と児玉事務局員が書記を務めることになった。

4. 年度中間におけるにおける総会開催について

鳥養会長から、MLF シンポジウムの開催時期が3月から10月に変更されたことにより、今後、懇談会総会の開催も同時期に変更すると説明があった。

開催時期の変更に伴い、予算案、決算報告は規約に従い幹事会で承認し、HPと総会で報告する。基本方針等については総会での承認が必要であるが、4月から活動を始めるために、活動計画は幹事会で予備的に決定し、総会で承認いただくことにしたいとの説明があった。

5. 平成24年度活動計画と会員アンケートの実施について

杉山副会長から J-PARC は震災から復興して本格的な活動期に入っており、懇談会幹事としても懇談会の存在意義も含めて再検討した結果、24年度の活動目標について以下の通り提案したいとの説明があり、審議の結果承認された。

活動目標（１）：会員の声を聴き、交渉し、実現する

具体的な方法として、アンケートを実施し、会員の生の声を聴くことでその要望を実現させていく。また、新たなホームページ「ユーザー広場」を立ち上げた。アンケートはそのHPからも行うことができる。その他、初心者のためのMLF利用ポータルサイトや質問コーナーも立ち上げており、会員からの質問や要望に対応していく。

活動目標（２）：分科会活動を通じた学術的活動のさらなる活発化をはかる。

会員には、自身の科学的興味に基づいて分科会へ最低１つは所属いただき、分科会活動を盛り上げて行く。アンケートに希望する分科会名を記載頂く欄を設けている。

分科会活動は、最終的にはMLFシンポジウムなどで活動の成果報告等が行えればと考えている。分科会活動への資金的な援助も行い、また、新たな分科会の立ち上げも奨励する。

6. 平成24年度予算報告

森井会計担当幹事から、懇談会活動に使用する収入は会費を元に成り立っており、MLFや中性子産業利用推進協議会その他機関と協力して、会費を分科会活動に重点化して使用していきたいと説明があった。また、懇談会の独自色を出せるような分科会には手厚く予算配賦するなどの工夫も行いたいと説明があった。

平成23年度の会計報告は、前回の総会で決算見込みを説明してご承認をいただいております。24年度予算計画についても既に幹事会にて承認されている。23年度決算・24年度予算は、HPに掲載している旨報告があった。

7. 質疑応答

1) 新井氏から、「分科会活動を活発化させることは望ましいが、過去に分科会の開催の都度、MLFの装置担当者が説明に赴いて労力がかかったことがあったため、その辺りの配慮をお願いしたい。」と意見があった。

これに対し、鳥養会長から「分科会の開催は、他の組織との連携と棲み分けをよく相談して、分野の重複が無いよう進めていきたい。」、森井幹事から「現状では懇談会の独自の分科会は2件くらいしかなく、まずはその強化を優先し、さらに学問的、基礎的な分科会が増えれば良いと考えている。」とそれぞれ説明があった。

続けて、林氏から、「昨年度は中性子産業利用推進協議会が中心となって研究会を開催し、J-PARC の方には述べ 12 名の方に講師、講演等のご協力いただき感謝申し上げます。分科会等の活動に際しては CROSS、協議会、懇談会とで連携していくことは重要であり、今年度は年間 10 回程度の開催であろうが、引き続きご協力を頂きたい。」と発言があった。

さらに鳥養会長から「これまでは、施設側の担当者が中心となって分科会を計画していただいていたのだろうが、今後は懇談会会員等が中心になって運営できるようにしていかなくてはならないだろう。」と意見があった。また、「懇談会の活動目標(1)の中で「交渉する」というものを掲げたが、必ずしも交渉の相手は施設側だけではなく、必要に応じて、国や地方自治体にも J-PARC と協力してお願いに行くといったことも想定している。」と発言があった。

2) 永宮氏から「会場を見回すと、他の研究会等と比較して学生が少ないと思われる。分科会も含めて、学生を引き入れるような催し物をやっていただけないか。」と要望があった。

これに対し、鳥養会長から「例えば MLF で計画している『MLF スクール』という、学生や産業界などで初めて施設を使う方向けの催しが予定されている。懇談会もそうだが、中性子科学会や中間子学会としても積極的に協力していきたいと考えている。」と発言があった。

以上